|  |
| --- |
| 第16回災害対策委員会議事録 |
| 日　時 | 平成30年9月1日（土）13：30～ |
| 場　所 | 榊原病院　第一研修室 |
| 参加者 | 辻（委員長）、竹本（鈴鹿亀山ブロック）、堀川（津ブロック）、岡、高柳（松阪・伊勢ブロック）、西村（熊野ブロック）、三上（オブザーバー）　　 |
| 議　題 | １．各ブロックからの報告について２．実践報告会の発表について３．P-HUG（仮）の事例について４．その他 |
| 議事内容 | １．各ブロックの取り組み報告・ 四日市でHUGを実施。・ 大きな台風が通過したが、その後の被害状況の報告について。　　　→　大きな影響はないが、GHで保健センターに自主避難した施設がある。松阪市で災害対策本部が立ち上がった。具体的な活動は不明。10月にDPAT三重県研修２．実践報告会の発表について・ 作成途中の資料（三上作成）を見た後、発表内容を検討。**発表内容に加える内容：**「P-HUGの内容」「研修のアンケート結果」「委員メンバーの紹介」「HUGが貸出できるとのアナウンス」「災害対策委員会が立ち上がった経緯」「災害時の横の連携強化」「協力依頼も兼ね、実際の災害時の具体的活動内容」「HPで書き込みができるようにする」「役員だけのメーリングリストを他メンバーに広げる」**時期**：12月の土曜日　　**場所**：多度あやめ病院発表者をどうするか？中心は役職者で、岡氏が部分的に発表　経緯→役員、実際の活動→岡氏３．P-HUG（仮）の事例について・次年度の研修会開催に受けて準備をしていく・避難所で精神状態が増悪した場合の対応について・シチュエーション、避難所、発災から2WEEK・三重Pから派遣されたPとしての立ち位置・統合失調症患者・事例カードを作成P-HUGの作成について・振り分けた人たちが精神障害だった設定？・ゲーム性を持たせるようであれば場所ではなくて、どの職種に振り分けるか？・地域包括ケアシステムみたいに、P－HUGではなくてHUGの中にP的要素を織り込む形にする・被災後の避難所運営から地域マネジメントに設定を広げる・地図を使用してブロック分けして対応方法を検討するとゲーム性が高まる？・地図を使用して施設ごとに起こってくる問題を分ける・HUGの中に事例を入れ込んでみる・コンセプト→PSWとしてどう動くか？・Pの持ち味を重視するのであれば、発災からの時間軸を再検討する？・実際の地域を想定して、事例のケースに想定した場合どう対応するか？同じ問題でも地域での資源の格差により対応方法が変わってくる。より実践に近い？・社会資源が豊富な地域、そうでない地域、不足している地域→どのような資源が不足しているかが浮かび上がってくる？実在する地域の課題、良い点が見えてくるためそれを発信していく資源の設定をしておく → 社会資源の一覧表を作成しておく**次回までのタスク**具体的な設定を考える。・市単位で作成する。・ハザードマップを参考にする。・社会資源は何を洗い出す？　→　GH、作業所、保健センター、相談センター等・事例をカード化する（辻委員長）　繋ぎやすい事例が望ましい。・Pとしてのベースの知識を問う問題・保健所、警察からの相談などを入れる４．その他・愛知県協会の愛知県宿泊研修で災害対策での分科会の依頼あり実践報告会をするから、タイアップは可能であるとの返答どのようなかたちになるかは、９月１日に主催者の会で検討を行う予定・委員長からのお知らせ　ラインで情報の共有をする**次回災害対策委員会**内容：発表のリハーサル　日時：11月10日（土曜）時間13：30～場所：榊原病院※プロジェクター使用　　資料：スライド　発表７分？　20分必要？ |
| 次　回 | 平成31年2月2日（土）13:30～　榊原病院 第一研修室 |